

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0390100048
法人名	株式会社 サンメディカル
事業所名	グループホーム サンパーク 笑う門
所在地	岩手県盛岡市門1-15-27 (電話) 019-604-9772

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター3F		
訪問調査日	平成21年1月21日	評価確定日	3月12日

【情報提供票より】(20年12月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 6月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 8.2 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	1 階建ての 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	52,170 円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要(12月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	- 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	- 名	要支援2	- 名		
年齢	平均 84.3 歳	最低	74 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡田消化器科内科、小泉歯科医院、白倉歯科医院、訪問看護ステーションかわくぼ
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>北上川東岸県道396号線東側の閑静な住宅街に立地し、同法人のデイサービス事業所が併設されている。また、隣りには児童公園が整備されている。利用者の介護度が進んでいることもあり、車椅子の利用者もいるが、介護スタッフも一生懸命職務に専念している様子が見える。また、地域との連携を図ることに努力されている。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①行政との連携については、市の窓口との交流はほとんど無いが、担当包括支援センター(五月園)に困難事例等の指導を得ている。②月1回開催される社内研修には参加している。グループホーム協会ブロック研修には(在職)勤務年数に応じて参加している。③災害対策については、月1回避難訓練をしている。また、本体の会社で防災委員会を設立し、ホームの防災マニュアルを作成した。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善項目について、職員で取り組んでいる。社内の研修委員会で、交換研修を企画し、実施した。非常時持ち出し物品の整備、非常時連絡網の整備等、改善に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2か月に1回開催し、利用者の状況を報告している。夜間の開催で、家族が参加しにくい。会議では、ホームの行事への参加を依頼したり、助言をいただいている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族から(利用者の)外出・外泊等の要望については、本人の身体状況等、担当医師に相談しながら対応し、理解を頂いている。また、通院が無理な利用者については、往診可能な医師で対応することに了解を得ている。月1回ホーム通信を家族に郵送している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:3)</p> <p>ホーム通信については、家族の希望により、家族のみに配布している。また、ボランティアは幼児を連れた母子の訪問・犬の訪問等受け入れている。地区活動には、「流しそうめん」「都南花火」「地区文化祭」「新年会」にお誘いをいただき参加している。地域の方から「りんごの花見」の招待を受け参加するなど、徐々に地域に溶け込んできている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社の理念として「高齢者の尊厳」を謳っており、ホームはそれを踏まえて、「見つめて、認めてゆったりと、笑って過ごしたい」を開所以来モットーにしている。地域の一員としての関わりにも、積極的に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「ありがとう」の言葉で、信頼関係が深まり、利用者、家族、職員との関係も良い方向に向くことから、それぞれを受け入れることに心配りがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区活動の情報を得て、「流しそうめん」「都南花火」「地区文化祭」「新年会」に参加している。地域の方から「リンゴの花見」のお誘いを受け、皆で行っている。徐々に、地域の理解を得ている。ボランティアは、子供の訪問、犬の訪問、歌のグループ等受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を改善項目をシートにして、職員で取り組んだ。社内の研修委員会の企画で交換研修を実施した。また、非常時の持ち出し物品の整備、非常時連絡網の整備等、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催で利用者の状況報告をしている。夜の開催なので、多くの家族の参加には無理がある。委員には、運営の助言を頂いたり、ホームの行事への参加を依頼したりしている。	○	委員の範囲を拡大(地区消防の担当者・行政の担当者等)することで、協力の幅も広がってくるのが期待出来る。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者との交流は多くない。</p> <p>担当包括支援センター(五月園)には、困難事例等の指導を頂いている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>月1回、ホーム通信を家族にのみ郵送している。併せて、個人の様子、小遣い残高についても報告している。通院が無理な利用者に対しては、往診可能な医師で対応する旨を家族より同意を得ている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情では無いが、利用料の領収書発行で、職員の対応がスムーズでなかったことを指摘され、改善に向けて話し合いをした。サービスの一層の向上の為、家族アンケートを予定している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>退職者が出た時には、利用者と職員でお茶会をして、思い出作りをしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>社内研修は月1回行われている。グループホーム協会、ブロック研修は年数に応じて参加している。</p>	○	<p>新年度にむけ、職員の受講希望を聞き、年間の計画を立てて、職員を育てる為の取り組みを期待したい。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他の会社のグループホームで、医療連携の様子や運営推進会議、夏祭りの様子などを見学し、多くのことを学ぶことが出来た。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用(入居)を希望される場合、本人は少なくとも1回、家族は数度、来所して頂き、見学や話し合いを重ね、納得して利用(入居)している。帰宅願望の強かった方も、次第に落ち着き、現在は安定した生活をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の生活歴を把握し、共有している。仕事の事、配偶者の事がよく話される。教えてもらって「ありがとう」、聴いてもらって「ありがとう」の感謝の言葉を常に掛け合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話のきっかけは、生活歴や、その日の様子から見つけている。家族から教えてもらうこともある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の思いを大切に、毎朝、申し送り時にカンファレンスをして、健康チェックシートに記入し、共有している。都合で、昼休み時に行くこともある。「笑顔で楽しく過ごすことができる」を目標にしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	認知症の変化が激しいことに驚いている。利用者(入居者)が出来ることに、どの程度支援したら良いのか迷うことがある。カンファレンスで対応を検討している。また、変化に対しては、家族に面会時や、電話で報告・相談している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	会社の福祉機器部門を利用し、介護ベッド・マットレス・介助バーの導入をしたり、隣接のデイサービスとの交流を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用(入居)前のかかりつけ医に継続して受診出来るよう、支援している。体力が落ちて通院出来ない方は、家族と相談して、往診可能な医師に主治医を変更している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ほとんどの家族はターミナルを希望している。ホームとしては、看取りの心構えはある。主治医とも確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食事や排泄等の声かけは、穏やかに行われている。トイレの誘導は、便座に移動させ、外で見守り待機している。個人記録は事務室のロッカーに保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時や、おやつ時等、話を聞いたり、利用者の表情や動作から何をしたいかを汲み取り、希望に添うよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は隣のデイサービスで作っている。献立に希望がある時は、2～3日前に連絡している。介助が必要な方は2人で、職員が声かけしながら介助していた。後片付けは、2人ぐらいが手伝っていた。会話を楽しみながら、ほとんど完食している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	無理には入浴を勧めないが、週2回は楽しんで頂きたいと思っている。体調が悪い時は、足浴や清拭で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の後片付け、共有の洗面台磨きを自分の役割としている方や、歌の音頭をとる方等、本人の意欲を大切にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣の公園周辺の散歩(30分～40分)や、月1回のドライブをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出入り口が、表玄関1か所で、外側に呼び鈴がある。事務所から玄関が見えるので、出入りを把握している。夜は鍵を掛けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回避難訓練(玄関までの誘導)をしている。会社本体で防災委員会を設立している。ホームの防災マニュアルを作成している。	○	出入り口が1か所しかなく、車椅子利用者が6人の状態では、緊急避難時の混乱が想定される。非常口の整備を検討することと、また訓練のあり方の再考を期待したい。なお、地域の協力を頂く、働きかけも検討をして欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の体重測定で体調の変化をチェックしている。水分は、1,200～1,500ccを目安にしている。食事やおやつ時等、職員が見守りしながら確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日本古来のすだれや、よしずを使用し、西日を和らげている。天窓から入る光が、柔らかく明るい。居室に戻らず、畳敷きの小上がりで横になる方もいらっしゃる。居室の暖簾(ルン)は、個々別々で、個性を出している。壁には、作品のパッチワークのタペストリーが飾られてあった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物品の持ち込みを呼びかけている。写真、手芸品、椅子等で個性的な部屋作りがされていた。テレビ、クーラー等の電化製品の利用は少ない。		